

ねん がつここのか
2020年4月9日
せいもくようび しゅ ばんさん
聖木曜日・主の晩餐
きくち いさおだいしきょう せつきょう
菊地 功 大司教 ミサ説教

せいたい ひせき かみ そそ にんげん あい ひび
聖体の秘跡は、神があふれるほどに注がれる人間への愛を、日々わたし
こころ からだ かん せいてい あた
たちが心と体で感じるができるようにと、制定され、与えられま
した。

せいたい つう げんそん しゅ つね わたし とも め
聖体を通じて現存される主は、常に私たちと共におられることを、目
み かたち しめ じしん かた おこな ささ いの
に見える形で示されています。ご自身が語り行われたこと、捧げた祈
り、そしてその身を私たちのためにささげられたという事実を、再び来
ひ ひと つた つづ めい
られる日まで、すべての人に伝え続けるようにと命じられました。

さいご ばんさん できごと でしたち あか はじ いた れん
最後の晩餐での出来事は、弟子達の証しに始まって、いまに至るまで連
めん ひ つ う しょうらい つた
綿と引き継がれ、それを受けたわたしたちには、さらに将来へと伝えて
ぎむ
いく義務があります。

せいたいさいぎ あずか きねん おこな
聖体祭儀に与るたびに、「わたしの記念としてこのように行いなさい」
しゅ ことば せつせつ おも とも こころ
といわれた主イエスの言葉が、その切々たる思いと共にわたしたちの心
ひび わた
に響き渡ります。

こよい さいご ばんさん きねん しゅ かた おこな いの
今宵、最後の晩餐を記念しながら、主が語り行われたこと、その祈り、
あい み い かた おも お どうじ じ
そして愛に満ちた生き方を、あらためて思い起こしましょう。同時に、自
ぶんじしん う つ じじつ つぎ せだい ひ つ やくわり
分自身が受け継いだその事実を、次の世代へと引き継いでいく役割があ
じかく あら
るのだという自覚を新たにいたしましょう。

きょうかい きねん おこな い しゅ ことば
教会は、「わたしの記念としてこのように行いなさい」と言う主の言葉
したが しゅ かた おこな つた しゅ いの かみ
に従い、主が語り行われたことを宣べ伝え、主が祈られたように神

む いの しゅ おし あい ほうし じっせん
に向かって祈り、主が教えたように愛の奉仕を実践していきます。

あい でし わか せま なか ばんかん おも こ の
愛する弟子たちとの別れが迫る中で、万感の思いを込めてそう述べられ
た主イエスは、「わたしを忘れるな」と、弟子たちに命じたのではないでし
ょうか。聖体の秘跡が、ミサの中で繰り返しささげられるごとに、そこ
には「わたしを忘れるな」という主の思いが、響き渡ります。

ひび わた しゅ こえ ひび お しゅ おも
その響き渡る主の声を、むなしい響きに終わらせないためにも、主の思
いを受け継いで、次へと繋いでいく 共同体が必要です。

しゅ ことば う つ しゃかい げんじつ ただなか しゅ かた
主イエスの言葉を受け継いで、社会の現実の直中であって、主が語り
行われたこと、その祈り、そして愛に満ちた生き方を、あかししていく務
めは、教会の共同体に与えられた使命です。

かんせんしょう まんえん なか あたら ことば つか
コロナウイルス感染症が蔓延する中で、わたしたちは新しい言葉を使
うようになりました。日頃の会話の中で、感染症拡大以前にはあまり
口にすることのなかったいくつかの言葉を、当たり前のごとく口にするよ
うになりました。その中の一つが「社会的距離」という言葉です。

とうきょう せい だいせいどう せつしよくかん
ちょうどこの東京カテドラル聖マリア大聖堂もそうですが、接触感
染を避けるために「社会的距離」を確保しようと、聖堂内のベンチが以前
と比べてかなり離れて設置されています。

たが せつしよく さ だい かんせんよぼうさく みみ
互いの接触を避けることがまず第一の感染予防策だと耳にするよう
なって、わたしたちは、臆病になりました。互いに近づくことに、若干
の恐れを抱くようになりました。目に見える形で具体的に一メートルか
ら二メートルほどの距離を保って、なるべく他人と接触しないように
心掛けることが、だんだんと普通のことになってきました。今年の今頃、

せいどう はな せっち い さんせい
聖堂のベンチをこのように離して設置すると言ったら、誰も賛成してくれ
なかつたことでしょう。でもいまはそれが普通になりました。社会的距離
たも かんせんよぼう ひつよう なに はんろん
を保つことは、感染予防のために必要です。そのことには何も反論は
ありません。

ぶつりてき きより ところ きより ふか
しかしその物理的な距離が、心の距離をも深めてしまうことがないよう
いの
に祈っています。

こんばん かんせんしょう とくちょう おお かた かんせん むしょう
今般の感染症の特徴のためですが、多くの方が感染しても無症
じょう かいふく い むしょうじょう かんせんげん
状で回復すると言われていています。ただ、無症状のまま、感染源とな
かのうせい
る可能性があります。

じぶん いと かんせんげん た かた とく こうれい じ
自分が意図しないまま感染源となって、他の方、特に高齢であったり持
びょう かた きき おとしい きょうかい
病のある方のいのちを危機に陥れることのないようにと、いま教会
こうかい ちゅうし えいぞう つう
ではミサの公開を中止にしています。インターネットなどの映像を通じ
こんや かた
て、今夜のミサにあずかってくださる方もおられるでしょう。「すべてのいの
まも しゅちょう きょうかい せんたくし え
ちを守る」と主張する教会には、いまはその選択肢しか、あり得ない
おも
と思えます。

ぶつりてき きより たが ところ きより ふか
しかしその物理的な距離が、互いの心の距離を深めることにならない
いの
ように祈っています。

さいご ばんさん しゅ ことば う つ きょうかいきょうどうたい
さて、最後の晩餐で主からの言葉を受け継いだ教会共同体とは、ど
そんざい
んな存在でしょうか。

だいに こうかいぎ きょうかいけんしょう きょうかい
第二バチカン公会議の教会憲章は、「教会はキリストにおけるいわ
ひせき かみ しんみつ まじ ぜんじんるいいつち どうぐ
ば秘跡、すなわち神との親密な交わりと全人類一致のあかし、道具」
してき
だと指摘しています。

うえ きょうかい からだ きょうかい め み
その上で、教会はキリストの体であり、キリストは教会を「目に見え
る組織としてこの地上に設立」され、「目に見える集団と霊的共同体
たい ふくごつ ひと じつざい けいせい する
体」が「複雑な一つの実在を形成」しているのだと記しています。

きょうどうたい じっさい にちようび たてもの あつ しんと
わたしたちの共同体は、実際に日曜日に建物に集まってくる信徒の
あつ め み れいてき きょうどうたい そんざい
集まりだけのことではなく、目に見えない霊的な共同体としても存在
しています。キリストに したが けつい せんれい
従うことをひとたび決意し、洗礼によってキリス
トの体に加わるようにと呼ばれたものは、例えば日曜日に教会に行か
ないからと言って、キリスト者でなくなるわけではありません。そもそも、
からだ ぞく いっぴきおおかみ しんと そんざい え
キリストの体に属さない、一匹狼の信徒などという存在はあり得ま
せん。

よわ そんざい め み きょうどうたい
しかしながら、わたしたちは弱い存在ですから、目に見える共同体での
ぶつりてき まじ うしな ころ はな ゆうわく
物理的な交わりを失うとき、心も離れてしまう誘惑にさらされてしま
います。

きょうかい き き ちよくめん
教会はいま、まさしくその危機に直面しています。コンピュータのディ
まえ ころ
スプレイの前でミサにあずかっておられるとき、その心はどこにあります
か。

きょうこう にせい かいちよく きょうかい あた せいたい
教皇ヨハネパウロ二世の回勅『教会にいのちを与える聖体』に、
する
こう記されています。
しさい さいぎ おこな しさい れいてきせいかつ
『(司祭が祭儀を行うこと)それは司祭の霊的生活のためだけでなく、
きょうかい せかい ぜん しんじゃ れっせき
教会と世界の善のためにもなります。なぜなら「たとえ信者が列席で
かんしゃ さいぎ こうい きょうかい こうい
きなくとも、感謝の祭儀はキリストの行為であり、教会の行為だからで
す。』

したがって、聖せい体たい祭儀さいぎにあずかることは、たとえそれが実じつ際さいに聖せい体たいをはい押おし
りょう ともな げんざい じょうきょう れいてきせいいたい
領りょうすることを伴ともなっているか、いま現在の状げんざい況じょうきょうのように靈れいてき的せい聖せい体たい
ははいりょう ともな ばあい こじんてき しんじん
押おし領りょうを伴ともなっているか、どちらの場合ばあいであつても、個人こじん的てきな信しん心じんのため
ではなく、教きょう会かいの公おおの行こう為いにあずかっていることを忘わすれてはなりませ
ん。

さいご ばんさん しゅ せいてい せいいたい でし きょうどうたい あた
最後の晩ばん餐さんで主しゅイエスが制せい定ていされた聖せい体たいは、弟でし子きょうの共こう同どう体たいに与あたえら
れれきし なか れんめん きょうどうたい つう つた つづ せいいたい
れ、歴れ史きしの中なかで連れん綿めんと、共きょう同どう体たいを通つうじて伝つたえ続つづけられました。聖せい体たい
は、教きょう会かい共こう同どう体たいの交まじわりを生うみ出だす秘ひ跡せきです。聖せい体たい祭儀さいぎにあずかる
とき きょうかいきょうどうたい まじ う だ ひせき せいいたいさいぎ
時とき、わたしたちは、教きょう会かい共こう同どう体たいの交まじわりの中なかにあることを意い識しした
おも
いと思おもいます。

ざんねん ぐたいてき かたち にちようび あつ
いま、残ざん念ねんなことに、具ぐ体たいてき的てきな形かたちで日に曜ちよう日びに集あつまっていないとしても、
わたしたちは、祈いのりの内ないに、小しょう教きょう区く共こう同どう体たいの交まじわりの中なかにありま
しょうきょうくきょうどうたい つう ふへんきょうかい まじ なか
す。小しょう教きょう区く共こう同どう体たいを通つうじて、普ふ遍へん教きょう会かいの交まじわりの中なかにありま

ぶつりてき きより はな み まも いま
物ぶつ理り的てきに距き離よりを離はなして身みを守まもらなくてはならない今いまだからこそ、わたした
ちは、離はなれていても、キリストの体からだである教きょう会かい共こう同どう体たいに結むすびあわさ
れれており、共ともに祈いのることによって、生いかさされていることを思おもい起おこしましよ
う。そしてわたしたち一人ひとりひとりには、この共きょう同どう体たいが主しゅご自じ身しんから受うけ継つ
いいだように、主しゅが語かたり行おこなわれたことを宣つたべ伝しゅえ、主しゅが祈いのられたように神かみ
むむのいのしゅおし あい ほうし じっせん つと
に向むかって祈いのり、主しゅが教おしえたように愛あいの奉ほう仕しを実じっ践せんする務つとめがあります。
しんこう もと ことば おこな からだ ことば
信しん仰こうに基もとづくわたしたちの言ことばと行おこないは、キリストの体からだとしての言ことば
おこな こんなん じき おも はいりよ ところ も たが
と行おこないます。困おこな難こんなんな時じき期おもだからこそ、思おもいやりと配はい慮りよの心ところを持もって互たが
ささ あ ことば おこな つう かみ しんみつ まじ ぜんじんるい
いに支さえ合あい、言ことばと行おこないを通つうじて、「神かみとの親しん密みつな交まじわりと全ぜん人じん類るい
いっち どうぐ
一致いっちのあかし、道どう具ぐ」でありましよう。